

2017年3月31日

## 第20回 懇話会の報告

- ◆ 開催日時 : 2017年3月15日(火) 18時30分～20時30分
- ◆ 場所 : 青山学院大学青山キャンパス 総研ビル7階 12会議室
- ◆ 講演者 : 政井寛氏(政井技術士事務所、当学会会員)
- ◆ 出席者 : 9名
- ◆ テーマ : 「情報システムプロデューサーのスキルと能力を鑑み、その育成(輩出)を考える」
- ◆ 内容 :

### I. 共通テーマ:「情報システムプロデューサー (ISP)」

今年度の懇話会は「情報システムプロデューサー」を共通テーマに設定し、各回で関連する内容を取り上げる方式で進めています。第19回懇話会では、「情報システムプロデューサー」とは何か?」をテーマにISPの必要性などについて議論をしました。ディスカッションをしました。今回は、ISPに求められるス

キルと能力やその育成（輩出）の方法などについて議論をした。

## II. 講演の概要

### 1. 企業を取り巻く情報システムの変化

クラウドコンピューティングや ERP 等の社内プロセス統合パッケージの登場により、情報システムの開発方法や利用の形態が変化している。利用部門でシステム開発・運用を行う。

情報システム部門の存在感が低下している。行き過ぎたアウトソーシングにより社内の技術者の減少、人事の硬直化が社内で敬遠され、情報システム部門の不要論が台頭している。競争優位に資するシステム構築力の不足、先進的チャレンジに対してリスクが取れない、ユーザ部門内システム（シャドウ IT）増加による運用の混乱。

企業における情報システムの価値（影響）が変化している。事務合理化ツールから戦略ツールへ。すべての組織で情報システムを利活用する時代。情報システムは人間で言えば「血管」の役割。

→ 新たな情報システム利活用推進体制が必要

## 2. 新たな情報システム利活用体制の方向

社内の間接業務に関するシステム（例、人事、総務系システム）は業務別パッケージまたは業務アウトソーシングへ

IT インフラストラクチャと IT 運用は、クラウドベンダーへ

社内統合業務は ERP パッケージ利用とクラウド利用と業務部門へ

事業系システムとその業務運用は、各事業部門へ

高度 IT 技術者（例、データマネジメント、セキュリティ、ベンダーコントロール、PMO）は COE（Center of Excellence）部門へ

## 3. 企業情報システム部門の役割変化

COE 部門は経営層の CIO と連携するとともに、ICT パートナー企業やクラウドベンダー、システムインテグレーター企業、ハード／ソフトベンダー企業と共に戦略的情報システムの計画立案・実現を

COE には高度 IT 技術者を。各事業部門には COE で育てた ISP を配置することで企業情報システム部門としての新たな役割を担っていく体制

## 4. ISP のスキルと能力

ISP は業務をモデル化する能力、モデルを改善する能力、やり抜く力が求め

られ、それらは、ビジネス・業務スキル、実現能力（マネジメント能力、リーダーシップ能力、ヒューマンスキル（プロデューサー能力）、IT スキルに依るものと言える

### III. 所感と御礼

参加者は9名と前回よりも増え、予定の時間では不足気味と思われるほど、活発な議論が交わされました。様々な意見が出されましたが、ISP 育成に関して、失敗事例や成功事例を共有する仕組みの大切さ、ISP のコンピテンシーの検討の重要性、IS 人材としてのマインドセットの重要性などが指摘されました。ISP 育成のヒントが提供されたように思います。

今年度、新しい方式での懇話会を2回開催することができ、また、活発な議論を展開することができましたことに厚く御礼を申し上げますとともに、若手の研究者の参加もありましたので、次代を担う年代の人達のご意見も伺いながら、次年度の企画を検討したいと思います。

以上

(文責 宮川裕之)